

# 鳥取大学研究成果リポジトリ

## Tottori University research result repository

タイトル Title	「一式飾り」探訪記：第19回 ふるさとへの愛着
著者 Author(s)	Takahashi, Kenji
掲載誌・巻号・ページ Citation	島根日日新聞：5 - 5
刊行日 Issue Date	2018-10-10
資源タイプ Resource Type	論文 / Article
版区分 Resource Version	出版社版 / Publisher
権利 Rights	注があるものを除き、この著作物は日本国著作権法により保護されています。 / This work is protected under Japanese Copyright Law unless otherwise noted.
DOI	
URL	<a href="http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/6246">http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/6246</a>

# 「一式飾り」探訪記

鳥取大学地域学部教授 高橋 健司

第19回

「一式飾り」の夏が終わった。各地へ調査に訪れるたびに、新たな発見があり、爽りの多い夏であった。

今回紹介するのは、7月の「平田天満宮祭」で飾られた作品である。写真をご覧いただきたい。作品のタイトルは「鼓笛隊」。楽器を演奏しながら、子どもたちが楽しそうに行進している。お猪口(ちよこ)や湯呑(のみ)を使った、高さ30センチほどの可愛らしい作品である。

この小さな作品を作ったのは、連載の第9回で紹介した出雲市立平田小学校の4年生の子どもたち。昨年11月に平田小学校で行われた「平田一式飾り」(表記が「平田一式飾り」から変更された)の体験授業の作品である。加納英雄氏をはじめ、平田一式飾り保存会の皆さんが指導した。私

## ふるさとへの愛着



も学生と一緒に手伝わせてもらった。

平田小学校の授業では、班プを用い、短時間で即興的な

ことに1体ずつ「ミニ一式飾り」を作り、それらを合体させたのが「鼓笛隊」である。直江の子どもたちも「ミニ一式飾り」を作っているが、針金の代わりにテープを用い、短時間で即興的な

子どもが作った小さな作品が、平田の祭りで飾られたことは以前にもあったが、展示案内に記載され、単独の作品として飾られたのは今年が初めてである。

作品を作るのに対し、平田の子どもたちは針金の掛け方から学び、数日かけて作品を丹念に仕上げている。最初は陶器に針金を掛けるのに苦労していた子どもが、保存会の方から手ほどきを受けて針金の掛け方を習得し、作品を一生懸命に作る姿が印象に残っている。

そのおかげであるとか、祭りを訪れた出雲市長が「鼓笛隊」を見て感動したと話されていた。ようやく平田でも、子どもの作品が目立つようになったと思う。

小さな作品であっても制作の手を抜かないのは、平田の伝統と言えるかもしれない。「平田一式飾り」は、江戸時代の寺町の桔梗屋十兵衛が、茶道具一式で「大黒天」を作ったのが始まりとされ、それは小さな作品であったと考えられる。保存会の人たちが再現した「大黒天」を見れば、小さくても「見立て」の機知にあふれているのがよく分かる。

地域の学校で「一式飾り」を伝える地道な取り組みは、すぐに結果を期待できないが、幼い日に「一式飾り」に触れた記憶は、大人になっても忘れないと思う。いつの日か「一式飾り」が、ふるさとへの愛着を呼び起こしてくれることを願う。

「平田一式飾り」の中興の祖とされる千把雲陽氏が作った小作品を見ても、そこに伝統のエッセンスが凝縮されているように感じる。保存会の技術部長を務める加納氏もまた、こうした小作品の伝統の技を受け継ぐ名手の一人である。

を願う。